第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
3.教育研究組織 **【計画6】㋐（大学院医療保健学研究科）** 大学院医療保健学研究科修士課程プライマリケア看護学領域を令和5年度に開講するための準備を進めるとともに、開講後適切に運営する。 **「計画達成のための方策」** 大学院医療保健学研究科修士課程プライマリケア看護学領域を令和5年度に開講するため、関係機関との調整等を着実に実施し、開講準備を着実に進めるとともに、開講後適切に運営する。 **「評価指標」** ・大学院修士課程プライマリケア看護学領域の開講準備・運営状況 （令和7・8年度） ・入学者数、特定行為管理委員会開催数、修了生の人数、日本NP教育大学院協議会におけるNP資格認定試験合格者の人数、修了後の就業先と職務の状況、修了後の学会や研究会等の発表件数、在学生と修了生との交流及び研修会の開催状況	Ⅲ	・①から⑬について、計画通り全て完了した。 ・入学試験結果11名が合格した。準備状況においては、非常勤講師77名、実習施設の確保を完了し、現在は委嘱状の発行、教材作成を進めている。 ・⑦演習教室の確保、⑧シミュレータの検討については、令和5年前期に改修工事等を行いシミュレータの設置など教育環境の整備を継続する。 ・また、講師情報の変更に伴って、厚生労働省の変更申請を随時行っていく。	**【年度計画6】** 1.大学院医療保健学研究科修士課程プライマリケア看護学領域を開講する。 ①4月開講 ②カリキュラムの進捗管理 ③科目試験の管理 ④入学合格者の実習病院決定と厚生局修正申請 ⑤放送大学（特定行為共通科目）学習の進捗および評価管理 ⑥オンライン科目の授業資料の作成（令和6年度分）管理 ⑦演習（OSCE）物品・シミュレータの搬入と管理 ⑧実習施設、実習指導医、実習指導NP（病院・施設・在宅）との打ち合わせ ⑨特定行為管理委員会開催 ⑩令和6年学生募集と入試 **「評価指標」** ・大学院修士課程プライマリケア看護学領域の運営状況	Ⅳ	・①から⑩について、計画通り全て完了した。 ・講義・演習では、学外講師77名（内訳：医師58名、看護師16名、そのほか専門家3名）学内講師8名の協力を得ることができ、計画通り、2023年4月に開講できた。 ・開講後は、カリキュラムの進捗管理、放送大学（特定行為共通科目）学習の進捗および評価管理、科目試験の管理により、設定期間内にすべての院生が履修合格ができた。 ・実習施設、実習指導医、実習指導NP（病院・施設・在宅）との打ち合わせを実施し、実習施設4施設、NP9名の協力を得ることができ、全員履修合格となった。また、令和6年に向けて実習病院14施設の確保ができ、厚生局修正申請を提出予定である。 ・演習室の確保と修繕を完了し、令和6年の授業に向けて演習（OSCE）物品・シミュレータの搬入を行う予定である。 ・特定行為管理委員会は2023年10月に第1回の会議を実施した。 ・令和6年度学生募集と入試により、計16名が入学した。 ・予定8名を超える入学生にともない、令和6年度に教員（診療看護師）1名を学部兼任担当として採用できた。				
【計画7】（東が丘看護学部・看護学研究科） 独立行政法人国立病院機構との連携協力により東が丘看護学部及び大学院看護学研究科修士課程・博士課程において設置の趣旨を十分活かし教育研究を着実に履行するとともに、国立病院機構との連携協力を一層強化し教育研究体制の整備・充実を図る。 **「計画達成のための方策」** 1.令和5年度に看護学研究科に認定看護管理者養成コース、放射線看護専門看護師コースを設置する。 「評価指標」 ・認定看護管理者養成コース、放射線看護専門看護師コースの設置状況	Ⅲ	1.看護学研究科に認定看護管理者養成コースは計画通り設置した。 看護学研究科看護科学コースは、①「教育・研究」②「看護管理者」プログラムに分け、NHO本部との意見交換実施しニーズ把握後、②のカリキュラムを作成し、学則改正や、入学者募集等を進めている。令和5年度は実習施設から看護師長等4名を受け入れる予定である。日看協への届け出は不要である。収容定員増等の文科省への届出は令和5年5月の経営会議終了後届出予定である。	**【年度計画7】** 1.設置承認取得後、学生募集を開始及び、大学院修士課程定員を現行の30名から40名程度に増員する。 「評価指標」 ・新体制での定員確保状況	Ⅳ	1.看護学研究科に「教育・研究者プログラム」と「看護管理者プログラム」を設置するとともに、大学院修士課程定員を40名程度に増員した。そして、学則変更・文科省への届出等諸手続きを完了した。 ・令和6年度入学生は、博士課程を含めて44名と定員を確保した。				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
2.放射線看護研修センターで行っているがん放射線療法看護認定看護師養成課程は、発展的に終了し、上記看護学研究科における大学院教育に注力する。	Ⅳ	2.がん放射線療法看護認定看護師養成課程については閉じることとし、大学院のコースとして検討することとした。理由は、①コロナ禍で一カ所に研修会のために集合できない。②コロナの影響もあり年月を待っても研修希望者は定員まで集まらない。③専任の認定を取得している指導教員が不在である。以上のような施設の条件が整わず、日看協の協力を得て数カ月努力をしたが、不採算のコースとなるため、大学院で専門看護師コース開設の方が現場のニーズはあると考え、認定コースの中止閉校を決定した。	2.―		2.大学院としてがん放射線療法看護のコース設置を検討したが、全国でのニーズが極めて乏しく、大学院としての新たなコース設置は断念した。				
「評価指標」 ・放射線看護研修センターの円滑な終了手続き状況			**「評価指標」** ―						
【計画8】（千葉看護学部） 独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）との連携協力により、千葉看護学部において設置の趣旨を十分活かし教育研究を着実に履行するとともに、JCHOとの連携協力を一層強化し教育研究体制の整備・充実を図る。									
「計画達成のための方策」 1.全学様式による教員自己評価を継続する。 **「評価指標」** ・全学様式による教員自己評価の継続(1回/年)	Ⅳ	1.全学様式で、教員自己評価を７月に実施した。	**【年度計画8】** 1.全学様式による教員自己評価を継続する。 **「評価指標」** ・全学様式による教員自己評価の継続(1回/年)	Ⅳ	1.全学様式による教員自己評価を5月に実施し、学部長による総括を8月に公開した。				
2.JCHOとの人事交流を継続する。 **「評価指標」** ・JCHOとの人事交流の継続(助手1人/年)	Ⅳ	2.1名の助手の人事交流を継続している。	2.JCHOとの人事交流を継続する。 **「評価指標」** ・JCHOとの人事交流の継続(助手1人/年)	Ⅳ	2.JCHO船橋中央病院看護師1名を助手として人事交流した（2022～2023年度）。2024年度については適切な人材が選出できず、本制度の評価と見直しを要すると評価している。				
3.JCHOとの共同活動に関するグランドデザインをもとに、人材育成と活用を進め、点検評価を行い継続的な発展を図るとともに、成果を公開する。 **「評価指標」** ・JCHOとの共同活動状況（運営協議会1回/年、未来を語る検討会4回/年、JCHO学会発表1回/年）	Ⅱ	3.JCHOとの運営協議会を8月3日に開催した。人材育成に関しては、新人研修への参加、看護研究に関する共同活動は実施したが、JCHO学会には準備不足のため演題応募を行わなかった。新人研修、学生実習を含め将来に向けた検討は継続的に実施しているが、「未来を語る検討会」としては実施しておらず、次年度以降の課題である。	3.JCHOとの共同活動に関するグランドデザインをもとに、人材育成と活用を進め、点検評価を行い継続的な発展を図るとともに、成果を公開する。 **「評価指標」** ・JCHOとの共同活動状況（運営協議会1回/年、未来を語る検討会1回/年、JCHO学会発表1回/年）	Ⅲ	3.JCHOとの運営協議会を8月17日に開催した。人材育成に関しては、船橋中央病院での新人研修への参加、船橋中央病院・東京山手メディカルセンター・埼玉メディカルセンターでの看護研究に関する共同活動、公開講座における講師依頼、JCHO学会でのポスター発表を行った。「未来を語る検討会」としては開催をしていらず、船橋中央病院の移転改築も控えて、次年度はグランドデザインとして包括的な視点から評価・対策することが課題である。				
4.カリキュラム改定準備を進める。 **「評価指標」** ・カリキュラム改定の準備状況 ・DPと一貫したAPを実現するための検討状況	Ⅲ	4.4月に将来構想委員会の下部組織として、カリキュラム評価プロジェクトを立ち上げ、カリキュラム評価に関する拡大会議の後、①DPとのシラバス照合 ②全科目の授業評価アンケートの分析、③4年生卒業時カリキュラム評価アンケート、④現行カリキュラムの看護学教育モデルコアカリキュラムとの照合点検（全教員参加）を行い、3月にFD報告会を開催した。令和5年度は、令和6年度からの新カリキュラムを構想する予定。	4.カリキュラム改定準備を進める。 **「評価指標」** ・カリキュラム改定の準備状況 ・DPと一貫したAPを実現するための検討状況	Ⅳ	4.2022年度より将来構想委員会の下部組織として立ち上げたカリキュラム評価プロジェクトを、カリキュラムプロジェクトとして発展的に再構成し、文部科学省の看護学モデルコアカリキュラム改訂の動向を注視しながら、改定に向け活動を継続した。具体的には、①実習前CBT・OSCEの導入検討、②「育てたい人材像」の検討、③文科省モデルコアカリキュラム改訂の主旨・方向性・内容に関する情報収集、等である。8月17日および3月14日には学部全体での検討会を行い、方向性を確認するとともに、今後の課題と進め方について検討を行った。 令和6年度も活動を継続し、新カリキュラム（案）を構想していく予定とする。				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画9】㋐(和歌山看護学部・看護学研究科・和歌山看護実践研究センター) 生涯を通じて自己研鑽するための支援体制をつくり、生涯にわたって成長し続ける医療人の育成を図る。 **「計画達成のための方策」** 日赤和歌山医療センターとの協議のもとに、ニーズの高いものから研修を計画・実施を行い、更に和歌山県下のニーズに対応する。 **「評価指標」** ・研修の実施状況、研修参加者からのニーズの把握状況	Ⅳ	・医療職を対象に精神疾患を持つ対象者の地域移行をテーマにした基本的な内容の学習会を計5回オンライン開催した。本学部の卒業生を対象に交流会を開催し、前向きに取り組めるよう支援した。2023年度日赤和歌山医療センターに就職予定学生を対象に基本的技術を復習する研修を企画した。 ・生涯を通じて自己研鑽ということから、大学院進学について連携病院には複数回、地域の医療機関には出向いて説明を行った。 ・学習会は5回とも概ね満足の評価を得、さらに経験者対象の学習会の希望も出された。さらに他のテーマについての希望をもとに次年度の研修計画を検討している。卒業生の交流会には数10名の参加があり、前向きになれたとの感想が聞かれた。基本的技術研修の参加は50名程度を予定している。 ・大学院令和5年度入学予定者は8名で内日赤和歌山医療センターからは1名であった。今後入学生の確保を検討する。	**【年度計画9】** 日赤和歌山医療センターと本学部のニーズを優先した研修計画を実施する。 ・大学院和歌山看護学研究科での学びの意味を発信し入学者の獲得を図る。 **「評価指標」** ・研修の実施状況、研修参加者からのニーズの把握状況 ・大学院入学生数（日赤から2名以上）	Ⅲ	・学習会「臨床実践を科学的に意味づける-文献検索の意義と方法を知ろう-」を4回にわたって実施した。参加者に本研究科についての案内及び大学院生体験談を話して頂いた。 ・大学院進学については連携病院には複数回説明会を開催し、実習施設への案内、及び和歌山県看護協会長の協力により県下の医療施設看護管理者に大学院進学の説明と学ぶことを進めていただいた。学部生向けの大学院進学についても説明も行い、興味のある学生の声も聴いている。 ・学部卒業生を対象に日赤和歌山医療センターとの連携により、院内ラボにおいて就職前の看護技術研修（基礎トレーニング）を行った。今年度は和歌山県下の新就職者を対象とする前段階として、まずは県下の施設管理者における見学希望の周知を行い、施設管理者から複数名の見学希望があった。研修参加者の満足度は高かった。 ・秋季と春季の2回の入学試験を実施したが、大学院入学生数は8名（日赤からは1名）になり、定員を充足できなかった。				